CBON
To create and produce the beauty

各　　位

平成 24 年３月 22 日

会 社 名　株 式 会 社 シ ー ボ ン
代表者名　代表取締役社長　金子　靖代
（コード番号：4926　東証第二部・JASDAQ）
問合せ先　取締役管理部担当　諏佐　貴紀
（TEL：044－979－1234）

東京証券取引所市場第二部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成24年３月22日に東京証券取引所市場第二部に上場いたしました。今後も皆様方のご期待にお応えすべく、業容の拡大と企業価値の向上を目指す所存でございますので、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当期の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等については別添のとおり（添付資料は平成24年１月31日に公表済みの資料です。）であります。

【単体】　（単位：百万円、％）

項目＼決算期	平成 24 年３月期（予想）			平成 24 年３月期第３四半期累計期間（実績）		平成 23 年３月期（実績）	
		構成比	前年比		構成比		構成比
売上高	14,698	100.0	99.6	10,666	100.0	11,128	100.0
営業利益	1,356	9.2	100.9	1,071	10.0	1,072	9.6
経常利益	1,406	9.6	100.6	1,116	10.5	1,114	10.0
当期（四半期）純利益	352	2.4	52.3	141	1.3	533	4.8
１株当たり当期（四半期）純利益	83 円 13 銭			33 円 42 銭		125 円 84 銭	
１株当たり配当金	80 円 00 銭			―		―	

（注）１．当社は連結財務諸表を作成しておりません。
（注）２．平成23年３月期（実績）及び平成24年３月期第３四半期累計期間（実績）の１株当たり当期（四半期）純利益は、期中平均株式数より算出し、平成24年３月期（予想）の１株当たり当期純利益は、予想期中平均株式数により算出しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

以　上

平成24年３月期　第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年１月31日

上場会社名	株式会社シーボン		上場取引所　大
コード番号	4926		ＵＲＬ　http://www.cbon.co.jp/
代表者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）金子 靖代	
問合せ先責任者	（役職名）取締役管理部担当	（氏名）諏佐 貴紀	ＴＥＬ　044－979－1234
四半期報告書提出予定日	平成24年２月10日		配当支払開始予定日　－

四半期決算補足説明資料作成の有無：　有
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成24年３月期第３四半期の業績（平成23年４月１日～平成23年12月31日）

（１）経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年３月期第３四半期	10,666	△4.1	1,071	△0.2	1,116	0.2	141	△73.4
23年３月期第３四半期	11,128	△0.1	1,072	22.2	1,114	25.0	533	△3.0

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年３月期第３四半期	33.42	－
23年３月期第３四半期	125.84	－

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年３月期第３四半期	10,734	8,509	79.2
23年３月期	11,031	8,740	79.2

（参考）自己資本　24年３月期第３四半期　8,505百万円　23年３月期　8,737百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年３月期	－	35.00	－	55.00	90.00
24年３月期	－	30.00	－		
24年３月期（予想）				50.00	80.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．平成24年３月期の業績予想（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,698	0.4	1,356	0.9	1,406	0.6	352	△47.7	83.13

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

４．その他

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 有
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

（３）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年３月期３Ｑ	4,243,000株	23年３月期	4,243,000株
② 期末自己株式数	24年３月期３Ｑ	138株	23年３月期	138株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年３月期３Ｑ	4,242,862株	23年３月期３Ｑ	4,242,926株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 3
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 3
４．四半期財務諸表 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
第３四半期累計期間 …… 6
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9
５．補足情報 …… 9
（１）主要な設備 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

当第３四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から一部回復の兆しがみられた一方、欧州の財政不安等による世界的な景気停滞や急激な円高進行、株安等により先行きは依然として不透明な状況が続いております。

こうした経営環境の中、当社は創業以来、「お客様の美を創造し演出する会社」として、「お客様に美しくなることを提供し、その結果に最後まで責任を持つ」ために、化粧品の研究・開発、製造から販売、アフターサービスに至るまでの製販サービス一体の事業展開を行い、化粧品にアフターサービスという独自の付加価値をつけることにより、他メーカーとの差別化を図っております。

当第３四半期累計期間における主な販売活動として、新店の開設及び自粛しておりました集客活動の再開と集客方法の多様化による新規顧客の獲得を行うとともに、既存顧客に対するきめ細やかなサービスと顧客ニーズに対応した製品を提供してまいりました。

店舗におきましては、５月には江坂東急プラザオッツ店（現「江坂オッツ店」）、11月には直営店としては105店舗目となる久喜パークタウン店をオープンし、販売網の強化を図りました。

新規顧客の獲得におきましては、新店の開設に加え、東日本大震災の影響に伴い、集客活動の自粛をしておりましたが、イベント集客を中心に徐々に再開してまいりました。また、接客力の強化を図ることで既存顧客からのご紹介による来店にも注力してまいりました。

既存顧客におきましては、季節に応じたスキンケアの訴求や定番美容液『ＦＰプログラム14Ｓ』の増量キャンペーン（９月）や歳末キャンペーン（12月）等、定期的に店舗へご来店頂ける企画を実施いたしました。また、顧客満足度向上のためにメールアンケートを積極的に活用したきめ細やかなサービスの提供など、顧客管理体制の強化を徹底し、顧客の来店促進を行ってまいりました。

製品におきましては、下記の通り期間限定製品等を発売いたしました。

・４月：紫外線量が気になる春からの美白対策として、美白スキンケアラインのホワイトシリーズより、期間限定セットを発売。
・５月：３ステップの美白ケアプログラムとして、毎年人気の『ＳＰＡ　ＢＡ』をさらにバージョンアップした夏季限定のスペシャルセットを発売。
・７月：美白スキンケアラインのホワイトシリーズより、気になる部分を集中ケアし、明るい素肌へ導く薬用美白クリーム『ブライトクリーム』とシートタイプのエッセンスパック『フレッシュセラムマスク』を発売。
・８月：夏のダメージ肌に働きかけるサロンケア専用のスペシャルケアセット『ＳＰＡ　ＰＪ－Ｗ』を数量限定で発売。
・10月：高級エイジングケアラインのコンセントレートシリーズより、夜専用のスキンケア３アイテム『バイタルクリーム』『ハイドレーター』『ナイトセラムＳ』を新発売。
・11月：初のサプリメントとして平成22年11月に発売した『アサイベリー』をバージョンアップした『アサイベリーＱ10』を発売。
　また、睡眠中の肌機能に着目した『ＳＰＡ　ＣＯＮＣＥＮＴＲＡＴＥ　ＮＰ』及びオリジナル酵素ドリンク『葡萄美人-2011』を数量限定で発売。
・12月：ボディ用の保湿美容液『ＭＥボディエッセンス』をリニューアル発売。

以上の販売活動を実施した結果、直営店舗における売上高は10,391,963千円（前年同期比4.2％減）となりました。一方、当社は東京化粧品厚生年金基金に加入しておりましたが、将来的に財務面でのリスクが懸念されるため、同基金から脱退し、これに伴う特別掛金772,147千円を特別損失として計上いたしました。

この結果、当第３四半期累計期間の業績は、売上高10,666,755千円（前年同期比4.1％減）、営業利益1,071,116千円（前年同期比0.2％減）、経常利益1,116,494千円（前年同期比0.2％増）、四半期純利益141,810千円（前年同期比73.4％減）となりました。

（２）財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第３四半期会計期間末の資産は10,734,159千円となり、前事業年度末に比べて297,536千円減少いたしました。その主な要因は、現金及び預金の減少（前事業年度末比646,818千円減）、売掛金の増加（前事業年度末比224,231千円増）、商品及び製品の増加（前事業年度末比59,810千円増）によるものであります。

（負債）

当第３四半期会計期間末の負債は2,224,356千円となり、前事業年度末に比べて67,227千円減少いたしました。その主な要因は、資産除去債務の増加（前事業年度末比13,384千円増）、未払法人税等の減少（前事業年度末比118,081千円減）によるものであります。

（純資産）

当第３四半期会計期間末の純資産は8,509,803千円となり、前事業年度末に比べて230,308千円減少いたしました。その主な要因は、利益剰余金の減少（前事業年度末比218,832千円減）、その他有価証券評価差額金の減少（前事業年度比14,001千円減）によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第３四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ1,646,818千円減少し、当第３四半期会計期間末は1,808,887千円（前年同期比40.7％減）となりました。

当第３四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期累計期間において、営業活動の結果得られた資金は24,967千円（前年同期比96.3％減）となりました。これは主に、税引前四半期純利益323,907千円、減価償却費213,156千円、売上債権の増加224,231千円、法人税等の支払額270,141千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期累計期間において、投資活動の結果使用した資金は1,313,595千円（前年同期比538.5％増）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出1,000,000千円、有形固定資産の取得による支出140,496千円、投資有価証券の取得による支出123,914千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期累計期間において、財務活動の結果使用した資金は358,190千円（前年同期比18.1％減）となりました。これは、配当金の支払によるものであります。

（３）業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成23年５月９日付「平成23年３月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」で公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

第１四半期会計期間より、「１株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第２号 平成22年６月30日）及び「１株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第４号 平成22年６月30日）を適用しております。

この適用により、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、ストック・オプションの権利行使により払い込まれた場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業に提供されるサービスに係る分を含めて算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の前第３四半期累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額は、125円84銭であります。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

４．四半期財務諸表
（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成23年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,455,706	2,808,887
売掛金	907,886	1,132,118
商品及び製品	300,329	360,140
仕掛品	98,548	80,666
原材料及び貯蔵品	387,258	387,507
その他	395,571	431,030
貸倒引当金	△391	△488
流動資産合計	5,544,909	5,199,862
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,161,009	2,094,522
土地	1,376,454	1,376,454
その他（純額）	403,536	405,328
有形固定資産合計	3,940,999	3,876,305
無形固定資産	99,985	123,462
投資その他の資産		
その他	1,449,093	1,537,204
貸倒引当金	△3,292	△2,675
投資その他の資産合計	1,445,800	1,534,528
固定資産合計	5,486,786	5,534,296
資産合計	11,031,696	10,734,159
負債の部		
流動負債		
買掛金	143,570	131,333
未払法人税等	277,084	159,003
賞与引当金	20,949	7,270
役員賞与引当金	17,050	17,400
ポイント引当金	406,497	409,433
資産除去債務	400	780
その他	987,682	1,050,198
流動負債合計	1,853,234	1,775,418
固定負債		
資産除去債務	246,550	259,555
その他	191,799	189,382
固定負債合計	438,349	448,938
負債合計	2,291,584	2,224,356

（単位：千円）

	前事業年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成23年12月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	449,547	449,547
資本剰余金	333,447	333,447
利益剰余金	7,974,520	7,755,687
自己株式	△194	△194
株主資本合計	8,757,320	8,538,487
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△19,464	△33,466
評価・換算差額等合計	△19,464	△33,466
新株予約権	2,256	4,782
純資産合計	8,740,111	8,509,803
負債純資産合計	11,031,696	10,734,159

（２）四半期損益計算書
（第３四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
売上高	11,128,126	10,666,755
売上原価	2,010,864	2,023,235
売上総利益	9,117,261	8,643,519
販売費及び一般管理費		
従業員給料	3,350,837	3,092,769
その他	4,693,444	4,479,634
販売費及び一般管理費合計	8,044,281	7,572,403
営業利益	1,072,980	1,071,116
営業外収益		
受取利息	1,283	3,487
受取配当金	5,362	7,054
受取家賃	34,528	34,528
その他	2,323	2,192
営業外収益合計	43,498	47,262
営業外費用		
支払利息	819	－
社宅等解約損	1,287	1,287
その他	123	596
営業外費用合計	2,230	1,884
経常利益	1,114,247	1,116,494
特別利益		
受取補償金	38,000	－
その他	1,839	－
特別利益合計	39,839	－
特別損失		
固定資産除却損	20,153	15,070
投資有価証券売却損	292	－
投資有価証券評価損	11,162	2,948
減損損失	9,384	2,420
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	156,680	－
厚生年金基金脱退拠出金	－	772,147
特別損失合計	197,673	792,587
税引前四半期純利益	956,413	323,907
法人税、住民税及び事業税	463,652	160,954
法人税等調整額	△41,170	21,143
法人税等合計	422,481	182,097
四半期純利益	533,932	141,810

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	956,413	323,907
減価償却費	234,389	213,156
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	156,680	－
減損損失	9,384	2,420
厚生年金基金脱退拠出金	－	772,147
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△135	△519
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△400	350
賞与引当金の増減額（△は減少）	△25,374	△13,679
ポイント引当金の増減額（△は減少）	△63,277	2,936
受取利息及び受取配当金	△6,646	△10,541
支払利息	819	－
固定資産除却損	19,888	13,395
投資有価証券売却損益（△は益）	292	－
投資有価証券評価損益（△は益）	11,162	2,948
売上債権の増減額（△は増加）	152,230	△224,231
たな卸資産の増減額（△は増加）	12,883	△42,176
仕入債務の増減額（△は減少）	△45,063	△12,237
その他	△145,579	31,975
小計	1,267,670	1,059,851
利息及び配当金の受取額	7,341	7,405
利息の支払額	△819	－
厚生年金基金脱退拠出金の支払額	－	△772,147
法人税等の支払額	△606,637	△270,141
営業活動によるキャッシュ・フロー	667,554	24,967
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△1,000,000
有形固定資産の取得による支出	△190,262	△140,496
無形固定資産の取得による支出	△1,316	△35,288
投資有価証券の取得による支出	－	△123,914
投資有価証券の売却による収入	1,482	－
敷金及び保証金の差入による支出	△36,551	△23,064
敷金及び保証金の回収による収入	13,805	17,080
その他	7,109	△7,912
投資活動によるキャッシュ・フロー	△205,732	△1,313,595
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△105,000	－
自己株式の取得による支出	△117	－
配当金の支払額	△332,235	△358,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	△437,352	△358,190

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	24,468	△1,646,818
現金及び現金同等物の期首残高	3,026,262	3,455,706
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,050,731	1,808,887

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

５．補足情報

（１）主要な設備

主要な設備について前事業年度末において計画中であった主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第３四半期累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

① 当第３四半期累計期間において、前四半期会計期間末において計画中であった重要な設備の新設について完了したものは、次のとおりであります。

事業所名 （所在地）	設備内容	帳簿価額 （千円）	完成年月
久喜パークタウン店 （埼玉県久喜市）	店舗	11,951	平成23年11月

（注）１．店舗の帳簿価額には、敷金及び保証金を含んでおります。

２．上記の金額には、消費税等は含んでおりません。